

被子植物の胎座（抄録）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-02-28 キーワード: 作成者: 河合, 功, Kawai, Isao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065368

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



被子植物の胎座(抄録)

Placentation in Angiosperms. V. Puri. Meerut College, Heerut, India.
The Botanical Review, Vol. 18. No.9 (1952)

Puri は最近約70年間に発達して来た被子植物の胎座に就いて、総括している。先づ胎座の型に就いては、数多くの型が観察されているが、これらをまとめて中軸、側膜、基底、独立中心、周辺の各胎座としている。

此等の間に関係に就いては、未だはっきりと定め難いが、一本の線で結んで行くと云う様な簡単な訳にはゆかない。即ち、中軸からは側膜、基底、独立中心、周辺の各胎座に進み、側膜からは中軸、基底、独立中心からは基底に、周辺からは中軸、基底の各胎座が変化し得ると考えられている。此の様に、数本の線で結ばれる交叉した関係を持っているのである。

此の胎座の進化に就いては、現在では全然判明しない。この中特に論争されているのは中軸胎座と、側膜胎座との間の進化の過程であって、どちらが原始型かと云う点で2つの意見が出ている。

側膜胎座が原始型だとする Gundersen 等の説は、(1)単細胞層の心皮を有する側膜胎座は、多細胞層の心皮を持つ中軸胎座より原始的である。(2)周辺部は中央部より先に発達する。(3)蕾の時には側膜胎座であるが、成熟すると中軸胎座になる事が見られる。(4)子房の上部は単細胞層の心皮を有し、下部は多細胞層の心皮である。即ち単細胞層から多細胞層になる。

これに対して、中軸胎座が最も原始型とする Puri 等の説では、(1)単細胞層の心皮は中央部に見られ、多細胞層の心皮は上部及び下部に見られる。(2)心皮の細胞の生ずる位置関係は空間的なものであって、系統的なものではない。(3)花及びその部分の生長は、系統的とは別個の生長独特の方法でなすものである。(4)同一心皮の二つの部分の合着による中軸胎座は、隣接する異った心皮の合着による側膜胎座よりも原始的である。

以上の様な論説によって二つの説に分けられるが、現在の学者達は前者、即ち側膜胎座の方が原始型であると云う説に傾きつつあるようである。

又系統分類学上の要素としての胎座は重要ではあるが、如何に重要な要素でもこれのみで分類系を作る訳にはゆかない。何となれば分類系に於ける位置の上下は、それがあらゆる点に於いて進んでいると、否とを示すものではないからである。しかしながら、或群と或群との類縁関係を調べると云う大綱分類学的な研究には大いに重要な役割を果している。

尙此処で注目すべき事は、各型の変化の経路と、原始型との決定が別々に考察されている事で、これは発生学、分類学上大いに参考となる事である。(河合功)

昭和29年4月10日印刷

昭和29年4月15日発行

金沢市越中町39番地
 発行人 下 沢 伊 八 郎
 金沢市仙石町金沢大学理学部植物学教室内
 発行所 北 陸 の 植 物 の 会
 金沢市賢坂辻通41
 印刷人 山 越 外 雄
 金沢市小將町1番地
 印刷所 山 越 商 店 印 刷 部